

第5回 とちぎ健康21プラン推進協議会

会議結果の概要

平成26年2月12日

栃木県保健福祉部健康増進課

○第5回とちぎ健康21プラン推進協議会の開催結果

- 1 日 時 平成26年2月12日（水）15:30～16:30
- 2 場 所 栃木県総合文化センター 特別会議室
- 3 出席者 太田会長、青山委員、井上委員、上原委員、生沼委員、大木委員、大羽委員、小瀬委員、落合委員、小野里委員、加藤委員、金子委員、菊池委員、久保委員、栗田委員、小林委員、西連地委員、鈴木委員、高津戸委員、舘野委員、田村委員、長嶋委員、長田委員、松本委員、宮本委員、山口委員、渡辺委員
〔県〕福田知事、名越保健福祉部長、山中次長、近藤次長、ほか

4 概 要

（1）知事あいさつ

当協議会におきまして、昨年、御審議をいただいた「健康長寿とちぎづくり推進条例」につきましては、おかげさまで、12月の通常会議で可決され、本年4月1日より施行の運びとなりました。

健康づくりに関する条例は、本県の実情を踏まえた、特色のある条例を制定することができたと考えております。太田会長を始め、委員の皆様にご熱心な御議論をいただきましたことに、改めて御礼申し上げます。

さて、条例に目標として掲げた「県民がその居住する地域にかかわらず、心身ともに健やかに歳を重ねていくことができる、健康長寿とちぎ」を実現するためには、県民一人ひとりが健康づくりを実践することができる社会環境の整備に向け、県民運動をオールとちぎ体制で推進していくことが何よりも重要であります。

そのため、本日は、県民運動を推進するための県民会議のあり方等について、御協議いただくこととしております。県民運動が実効性のあるものとなりますよう、忌憚のない御意見をお願い申し上げます。

（2）議事

①事務局から資料に基づき健康長寿とちぎづくり推進県民会議の設立について県としての考え方を説明し、意見交換を行った。事務局案に基づいて、県民会議の設立準備を進めることについて委員の了承を得た。

②事務局から資料に基づき、平成26年度当初予算案における主要な健康長寿

とちぎづくり事業について説明し、意見交換を行った。

【健康長寿とちぎづくり推進県民会議の設立についての各委員の発言要旨等】

〔委員〕

県民会議のスケジュールによると10月に健康長寿とちぎづくり推進大会が開催されます。最初の推進大会として相当大きな意義があるものと考えており、その大会をイベント的なものでなく、重点プロジェクトの内容を明確にして取り組む内容を示していくべきと考えていますが、どうですか。

(事務局)

重点プロジェクトの項目につきましては、8月に予定している県民会議の中で項目を確定させたいと考えています。10月の推進大会においては、そのことについて啓発をするとともに、重点プロジェクトに広く参画していただけるような呼びかけをしていきたいと考えています。具体的な事業の進め方については、11月の幹事会の中で更に検討をいただきたいと思います。

〔委員〕

発起人会が、今の28団体から更に拡充をすとの説明がありました。40～45団体の内訳について先ほど概略の説明があり、健康づくり関係者、事業者、その他の団体等で拡充したいということでありました。

健康づくりをどう県民に根ざしていくのかという観点からどのような方を委員とする考えであるのか伺います。

(事務局)

委員については、今後、詳しく中身を検討させていただきます。その際には今の発言についても十分に配慮して委員の人選させていただきます。

〔委員〕

子どもの頃からの健康づくりを推進するため教育関係団体を拡充することですが、保護者を代表するような団体にも声をかけていただきたい。

(事務局)

今の意見も参考としまして、これから人選を進めていきたいと思えます。

[委員]

重点プロジェクトの項目の最後に、子どもから高齢者までの健康教育推進プロジェクトとあります。

学校現場における健康教育として、どのような範囲を想定していますか。

(事務局)

幼稚園、保育園から県立、私立高校も含めての健康教育を考えています。

高齢者ということも含めて全世代につきまして健康教育の推進を考えています。

【平成26年度当初予算案における主要な健康長寿とちぎづくり事業についての各委員の発言要旨】

[委員]

ウォーキングコースを選定するにあたり現在具体的に想定していることはありますか。

(事務局)

既に各市町村や団体等においてウォーキングマップ等を作っているかと思えます。それらを集約して、かつ県民の皆様が身近なところで日常的に歩いていたことを考え、たくさんのコースを募集していきたいと考えています。

[委員]

民間のスポーツクラブとの提携について検討していますか。

(事務局)

提携というのではなく、最終的に広く募集をしていきたいと考えているところでは。まずは市町村や団体等がすでに有しているコースを募集し、その後、暫時コースの募集を行い、拡大をしていきたいと考えています。

[委員]

ロコモティブシンドロームの研修会の対象者はどういった方になるのですか。

(事務局)

市町村で健康づくり関係の業務に携わっている方にまず広く知って理解をしていただいて、市町村における健康教育の場あるいは健診の場等で普及啓発を図っていただくことを考えています。

[委員]

ウォーキングコースについて、私どもの食生活改善で以前、1万歩マップというのを栃木県の全市町村で作成しています。

それを活用してもらえればいいのではないかと思います。

(事務局)

十分に活用させていただきます。

[委員]

心の健康の保持の予算は、パンフレットを想定していますか。

(事務局)

パンフレットの中にチェックリストのようなものを入れて作成し、配布する予定です。

[文責 栃木県保健福祉部健康増進課]